



雄勝小学校校章

校章の中央は、「小」を表しています。雄勝は、古くは王勝と言われたとする伝承に基づき、その周りを上下に囲むように、「王勝」という文字がデザインされています。周囲は波をモチーフにしたデザインとなっています。波の形がたくましい海の子を表現しています。波の中の5つの丸い点

は、本校の校訓「正直 親切 礼儀 節約 公益」を表している(?)のだと思います。(制定当時の資料が津波により流失したため、はっきりとしたことはいえません。)

「雄勝」の由来

【その1】

雄勝という地名は、初めて雄勝地区に建てられた寺「王勝邑天雄寺」(おうかつむらてんゆうじ)1390年開山の名前から、王勝が「雄勝」となったといわれています。

【その2】

「雄勝」の由来は、坂上田村麿が皇勅により蝦夷征伐に赴いた折り、着いた浦が此処であった由。それ故着浦(つきの浦)と称され、田村麿が蝦夷を平定した事から「王勝」と名付けられたが、その後「王勝」はもったいないという事から「雄勝」と称するようになった。「雄勝」という名が初めて文献に記されたのは応永31年(1424)の瀬祭りの古文書に「オカチのスズリハマ」とあり、雄勝の硯浜に瀬があったことが記されている。(雄勝町の生い立ちの記より)

【その3】

王勝伝説は、後年付会のものと思われるが、王勝の発音と雄勝の発音が同じであり、その転訛は容易である。また、この地は他と隔絶した地形をもち、蝦夷説の存在は、語源の夷語説を思わせるものがある。

更に、地理的条件としての雄勝浜は、大原川と坊ヶ沢川の合流する河口である。海浜で二川合流して、互にくっついたり離れたりする川のことを、アイヌ語で

O-ukot-nay オウコツナイ

という。北海道一円にみられる地名である。(山田秀三北海道のアイヌ地名十二話)雄勝町の語源は、アイヌ語の「オウコツナイ」の転訛した可能性が大きいといえる。

1889年4月1日	市町村制施行により、雄勝浜村、明神浜村、名振浜村、船越浜村、大須浜村、熊沢浜村、桑浜村、立浜村、大浜村、小島浜村、水浜村、分浜村が合併し、 <u>十五浜村</u> が成立する。
1941年4月1日	十五浜村が町制施行し、 雄勝町 となる。
2005年4月1日	石巻市、桃生町、河南町、河北町、北上町、牡鹿町と合併し、新制「 石巻市 」となる。

あれ、12しかないじゃん？

→そうですね。3つ足りません。あとの3つは「尾崎浜」「長面」「釜谷浜」が入るのです。北上川を挟んで、南に「十五浜」、北に「十三浜」となるのです。